

## 会長(渡 文明)・社長(西尾 進路)就任挨拶について

記者各位

6月30日(木)、当社会長、渡 文明と社長、西尾進路は本社にて下記の通り就任挨拶をいたしましたのでお知らせします。

### 1. 会長(渡 文明)挨拶要旨

社長在任中の5年間は、決して平坦な道のりではなく、むしろ激動の期間でしたが、お陰様で、社長としての重責を全うできたのではないかと考えています。

私が社長に就任した2000年6月当時は、皆で同じ目標に向かっていくという状況ではありませんでした。しかしながら、社員の皆さんの努力で、6年前の合併新会社が異例の速さで完全に一本化し、そして「新日本石油」、[ENEOS]という新しい企業文化が誕生し、経営体質も一段と強化されて力強く歩み始めることが出来、心から敬意と感謝の意を表します。

私は今後、取締役会議長として、グループ全体の経営体制および業務執行の監視・監督に当たるとともに、当社はもちろんのこと、石油業界全体の質の向上、社会的地位の向上を目指して、対外活動にも一層力を尽くしたいと考えています。したがって、日々の業務執行に関しては、西尾新社長が業務の最高執行責任者として、これに当たることとなります。今回は、副社長を3人置いて、国内販売、海外事業、技術開発に関し、それぞれ分担して社長を補佐する万全の布陣としました。今後、新たな体制で第三次中期経営計画を実行していくこととなりますが、社員の皆さんには、目標達成に向けて、引き続きご支援・ご協力をいただきたいと思います。

### 2. 社長(西尾 進路)挨拶要旨

今年度から第3次連結中期経営計画がスタートしました。これまでの中期経営計画同様、私も計画策定に深く関与いたしました。今回の社長就任にあたり、第3次連結中期経営計画を完達し、第4次連結中期経営計画の道筋をつけることが私の最大の使命と受け止め、全力を傾注してまいります。

第3次連結中期経営計画の位置付けは、2010年における当社のグランドデザインである「一貫操業体制」と「総合エネルギー企業グループ体制」を実現し、大きく飛躍するための「基盤固めの時代」です。重点的に推進すべき戦略は、国内事業と海外事業です。

#### 『国内事業』

国内におけるコア事業の徹底した効率化・高付加価値化を追求してまいります。CRI(石油精製と石油化学の一体化)を一段と高度化させ、競争力の強化を図っていきます。また販売部門では、「量から質への転換」を更に進めることが重要です。当社は、「質」を通じたお客様へのENEOSブランドの訴求とともに、競争に打ち勝つ体制を強化しつつあり、第3次中期経営計画では、電気・ガス事業関連のインフラが数々立ち上がり、戦力化されエネルギーソリューション体制が強化されます。

#### 『海外事業』

海外事業は、コア事業によって創出したキャッシュフローを投入し、成長性を追求する戦略です。永続的な企業の成長を考えると、東アジアを中心とする国際マーケットを視野に入れることは不可欠であり、一貫操業体制の確立に向けた石油・天然ガス開発事業への重点投資に加え、成長著しいアジアマーケットを見据え、潤滑油事業の拡大と石油・石化品の輸出を積極的に展開していきたい。

その中で、我々は、どういった点に留意し業務を遂行すべきかについては、基本的には渡会長の進めて来た意識改革・風土改革などを継承することですが、改めて3点に整理して、皆様のご理解・ご協力をお願いしたい。

#### 『現場重視』

新日本石油グループの原点は、モノを作りこれを販売し、お客様に満足をお届けすることにあります。従って、我々は、常にお客様の目線に立って考え、行動することが求められます。1万ヶ所を超えるSS網や、多くの需要家など、お客様からの声を踏まえ、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、研究開発・生産そして販売活動に迅速に反映させていくことが、厳しい競争に打ち勝つための要点であると考えます。

同時に、社内においても、現場重視の姿勢として絶対に忘れてはいけないのが、現場に根ざした安全重視・品質重視の姿勢と実践であると考えます。人々から信頼される企業体質の確立に向けて、これまでと同様、現場と経営の距離を縮めていくことが不可欠と考えています。

#### 『将来への挑戦』

現状に満足せず、既成の枠組みや概念に固執しない柔軟な発想をもって、新たな技術の創造やマーケットの開拓に努めることが重要であると考えます。新たな事業の立上げや商品の開発など、チャレンジには多くの困難がありますが、それに恐れることなく、勇気を持って立ち向かって行くことが必要です。地球環境問題を先取りした、環境対応商品の開発や、来るべき水素社会を展望した燃料電池の開発など、これまでも様々な挑戦を続けてきましたが、今後は、こうした商品をマーケットへ本格的に展

開していく挑戦が待っています。一方で、経営としては、進む勇気と同時に、退く勇気・撤退する勇気も併せ持ち、「選択と集中」を徹底していきたい。

#### 『全社員参加のCSR経営の推進』

従来「コンプライアンス」、「人間尊重」、「環境安全」、「品質」の4つの分野の活動を中心に取り組んできましたが、この7月からは、「情報セキュリティ」および「社会貢献」の2分野を加え、6つの分野の活動を推進してまいります。CSRは企業経営の根幹に位置付けられると言っても過言ではなく、企業が社会の一員として果たすべき役割を全社共通認識のもと実行していくことにあります。そうした認識のもと、実践に当たっては、皆さん一人ひとりが高い倫理観を持ち、リスクに対する感度を高め、日常の業務遂行において常にCSRを心がけるよう努めていただくことが決定的に重要であります。またCSRは、グループ会社全体で、更に協力会社も含めて実践していくことが求められます。たとえ会社の経済的な利益を損なうことになっても、CSRなくして企業の存続・発展は無いことを、皆さんとともにここで確認したい。

こうした考えのもと、各部門には以下のことをお願いしたい。

1. 製造・物流部門:安全操業と環境への配慮を念頭に置き、サプライチェーンマネジメントの手法も用いた効率化と競争力強化を進める。
2. 販売部門:お客様の目線に立った顧客直視型経営を率先し、「量から質への転換」の実践と、エネルギーソリューション体制を活かした提案型営業を推進し、お客様満足度の向上と、当社ブランド価値の向上を進める。
3. 海外事業部門:成長戦略の追求といった大きな課題を認識し、常にグローバルな視野のもと、次代を見据えた先見性とリスクマネジメントの感度を共に高める。
4. 研究・開発部門:これまでも増して他社に劣らぬ卓越した技術力を構築し、経営マインドを持ってマーケットの動向を注視し、将来の商品化・事業化を見据えた研究開発を進める。
5. 管理部門:効率化による生産性の向上と、基本に忠実で堅実な業務遂行の両立を徹底的に追求する。

#### 最後に

経営計画の成否はもとより、企業経営の根幹となるのは、社員一人ひとりの人間力と、これを基盤とした信頼関係であり、活力ある組織であると考えます。

皆さんには、既成の概念にとらわれず、常に高い志のもと、自らの限界の拡大に挑戦する気概をもって業務に精励されることを期待いたします。私も経営に臨む姿勢として、現場と経営の距離を縮め、強固な信頼関係を構築するために、様々な場面で、皆さんの声に徹底して耳を傾けていくことを約束します。これまでの成功体験に甘んずることなく、大いに意見を述べていただき、それが良い提案であれば実行に移していきます。

これまでも増して風通しの良い企業風土のうえに立ち、「Your Choice of Energy」の理念のもと、皆さんの将来に向かってチャレンジする勇気と叡智を結集し、飛躍の時代に向かって大いに羽ばたこうではありませんか。グループ各社全社員の皆さんの力強いご支援とご協力をお願いします。

以上